

開催報告 第8回日本医療マネジメント学会学術総会



第8回 日本医療マネジメント学会
学術総会会長 高橋 俊毅
(国立病院機構横浜医療センター院長)

平成18年6月16日(金)17日(土)の両日、横浜市みなとみらいのパシフィコ横浜国際会議場と国立大ホールにて、第8回日本医療マネジメント学会学術総会の開催を担当させていただきました。開催準備と運営には主として横浜医療センターと神奈川県地方会が協力してあたらせていただきました。おかげさまで参加人数は、事前登録者が3,077名、当日参加者は1,279名、合計で4,356名となり、当学術総会の参加者数としては最多となりました。このため、すべての会場はほぼ満員であり、さらに一部の会場では廊下まで参加者があふれ、急遽テレビ中継をすることになり、大変ご迷惑をおかけしました。この他にもいくつかのいたらない点などからご迷惑をおかけした方もあったかと存じますが、皆様のご協力もあって当日の学術総会の運営には幸にも大きな問題は生じませんでした。

今回の学術総会は「医療の安全と質—医療・介護提供体制の改革をめぐる—」をテーマとし医療のあらゆる分野の問題について活発な討論が行われました。今回はセッション数と演題数が多く、昨年と違って第1日目の午前から開始することになりました。午前9時45分の開会式と引き続きの宮崎理事長の基調講演で学術総会は開始されました。特別講演では、松谷有希雄厚生労働省医政局長に「医療改革の方向性について」と題し、研修医制度や医療、介護体制の改革など最近の医療改革を幅広くご解説いただきました。また、ジャーナリストでもある法政大学教授の萩谷順さんには、「情報化社会と医療—医療を受けるものの立場から—」のご講演をいただき、医療人として現代の情報化社会にどう関わるかについてメッセージをいただきました。



ポスター発表



特別講演(パシフィコ横浜)



松谷有希雄 局長

招待講演では、中田宏横浜市長に横浜市政の改革、具体的事例としてのごみ処理問題について、その改革過程を熱く語っていただきました。我々、医療の現場への応用を喚起するお話でした。また、レモンちゃんこと落合恵子さんの招待講演は市民公開講座として開催しましたので、多くの市民の方にもご参加いただけました。お母様の介護を通じて感じられたことを熱く語りかけていただき、語りと音楽のコラボレーションによる演出が素晴らしく、会場で聴講した方には大きな感動を引き起こしました。講演の終盤に落合さんが語りのバックに流していた曲について多数の問い合わせをいただきました。また、感激した看護学生との楽屋裏での心温まる交流があり、これから医療人として育つ若い人への力強いメッセージとなったと思います。会長講演では、「医療安全の道険し」と題し、自施設で日夜医療安全に奮闘努力している人たちの実績と経験した医療事故を通じて今回のテーマでもある医療安全に関して日頃考えていることについて講演させていただきました。特別パネルディスカッションは最近注目されている2つのテーマで行いました。「地域連携とクリティカルパス」では、各地域で展開されている地域連携クリティカルパスとそれに関する諸問題について発表と討論をしていただきました。↗



中田 宏市長



落合恵子氏



招待講演会場風景